



生徒はダンスの何を見ているのか -ダンス映像鑑賞の視点-

丸山 実花（お茶の水女子大学附属高等学校）

背景

- 原田(2005)
大学2・3年生 男女27名 5種類の舞踊作品を鑑賞
→『運動』『作品』『身体』といった目に見えるものに対する気づきは多い
→『情調』『演者』の個性『作品』の意図などの動き以上のものを読みとる創造的な態度の育成が必要
動き以上のものを読みとる力は、高校生でも育成されるのか？
- 塚本,山口(2023)
舞踊経験がある者は鑑賞の言語化に長けている
ダンサーの表現しようとするものの想像や、空間・構造など細部までを見てイメージをふくらませていることが示唆
学習評価方法の変更により言語化を迫られている生徒たちは、経験に関係なく、語彙を多く持つのではないか？
- ボールゲーム（球技）では視野（視点）が広がっていくことがよいとされるが、ダンスは？

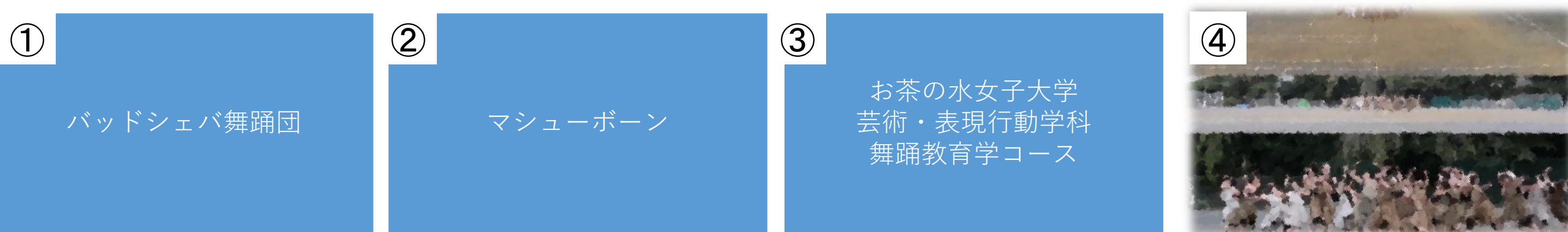
目的

高等学校段階のダンスの授業では何を育むことが必要なのか
◆生徒がダンスの作品を鑑賞する際の視点を明らかにする

方法

- 対象** 高校1年生 女子 119名
期間 2024年5月28日(火) 体育の授業 1時間（40分）
形式 質問紙調査（選択・記述）
内容 ・自身のダンス経験
・4作品のうち印象に残った作品（最大2つ）とその理由
・ダンスを鑑賞したときの視点（何に着目したか、④と①～③で違いがあったか）
分析 学校の授業外（課外）でのダンス経験別に生徒の記述内容を比較検討する。一部、ユーザーローカルテキストマイニングツール（<https://textmining.userlocal.jp/>）を用いた。

用いた映像作品



- ①バッドシェバ舞踊団（オハッド・ナハリン振付）
「アナフェイス（細胞分身）」「マイナス16」
- ②マシュー・ボーン「スワンレイク」
- ③お茶の水女子大学芸術・表行動学科舞踊教育学コース
第37回創作舞踊公演 4年生群舞「from the ground」
- ④本校ダンスコンクール2016 2年梅組「ポストン茶会事件」

ダンスコンクール

「輝鏡祭」3大行事（体育祭・文化祭）の1つ



第1回 昭和23年 今年度 第74回大会
2020年度 中止、2021年度～コロナ対応で実施

詳細、本校の研究紀要にも掲載されています



お茶の水女子大学附属学校園
教材・論文データベース

<https://kyozai-db.fz.ocha.ac.jp/>

お茶大附属 教材DB 検索



丸山実花(2023)多様性の時代になぜユニゾンを踊るのか—第73回ダンスコンクールの記録—,お茶の水女子大学附属高等学校研究紀要,第69号,p.99-104. など

結果・考察

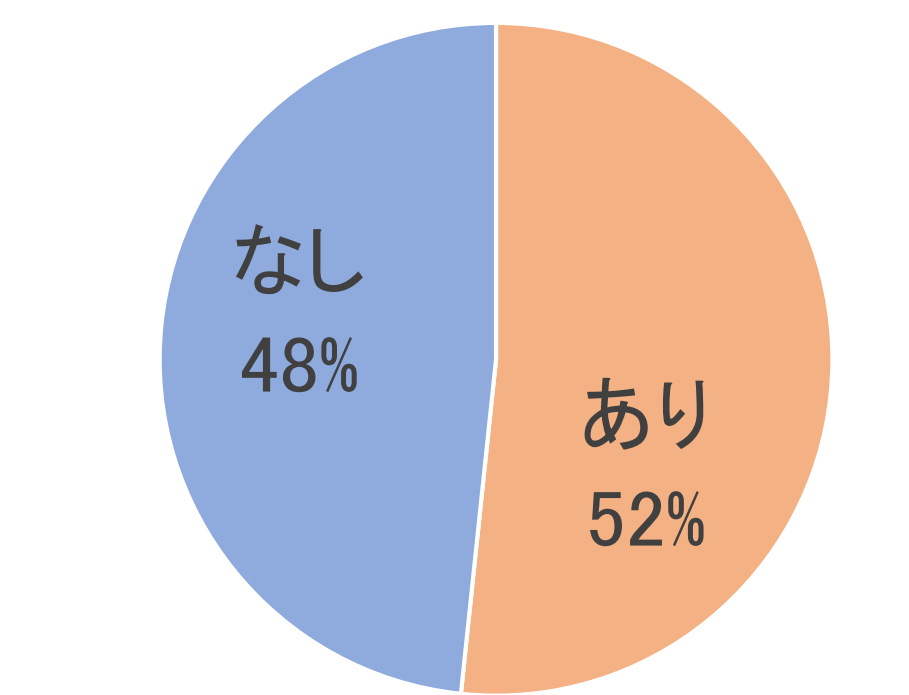


図1 課外ダンス経験の有無

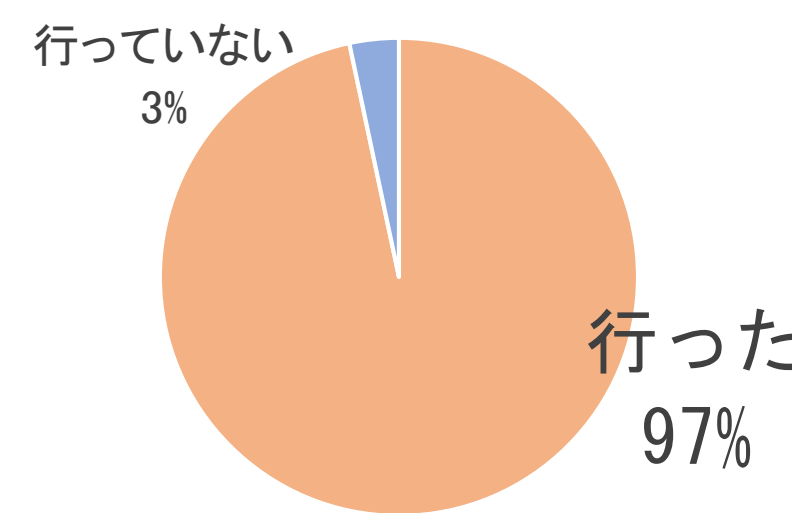


図3 ダンス授業経験(中学)

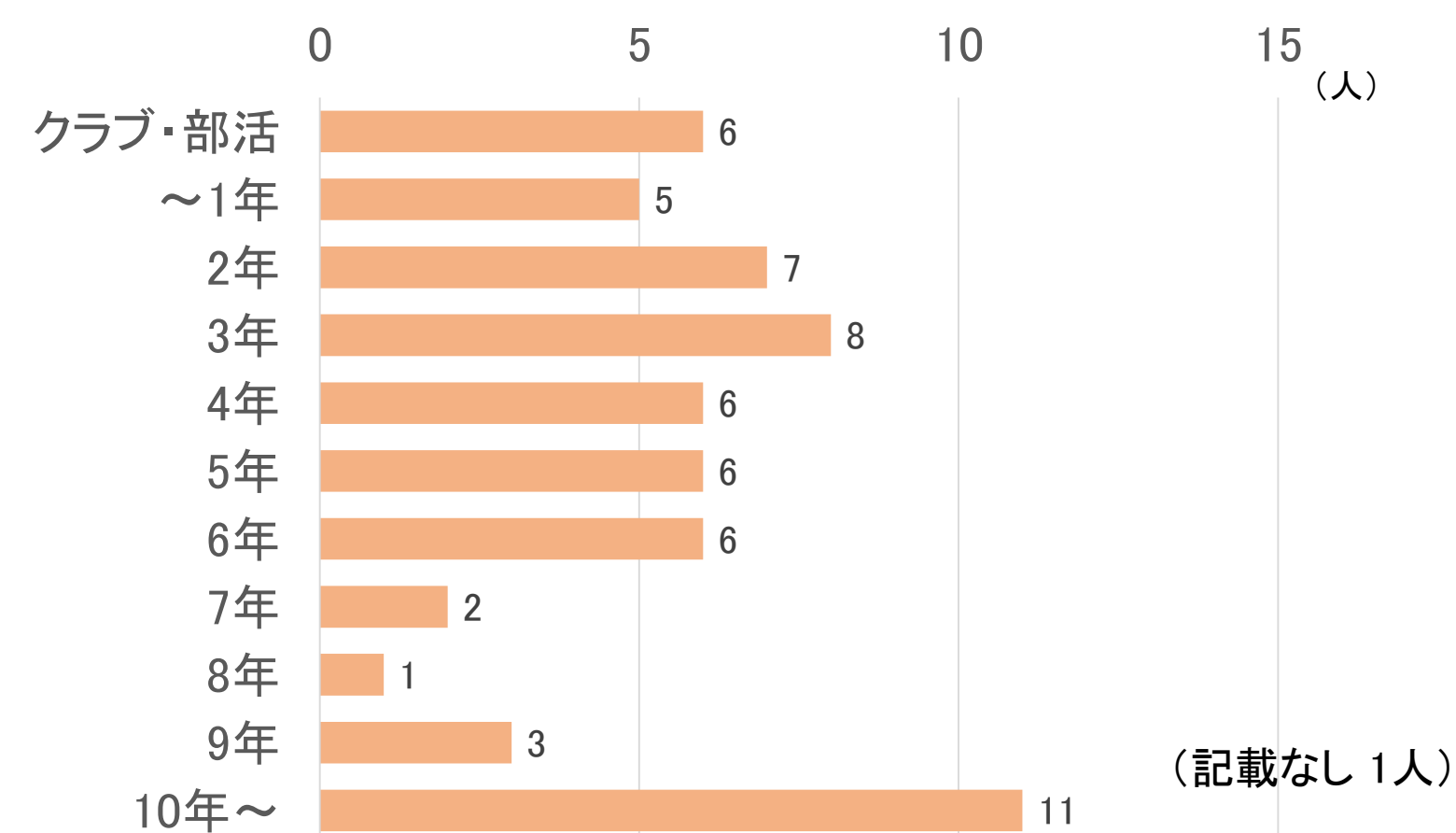


図2 ダンス習い事経験年数

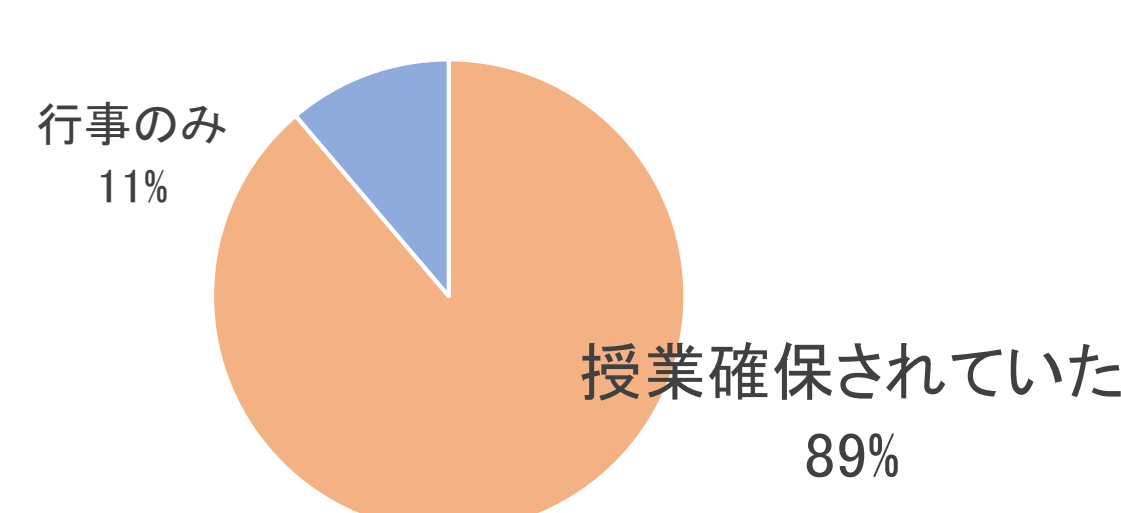


図4 ダンス授業(中学)の様子

- ダンス経験の有無による、ダンス映像の印象に残った作品に差異はみられなかった(図5)
- ①～④の鑑賞で印象に残った理由の記述について、用いている品詞の数にはあまり差異がみられなかった(表1)

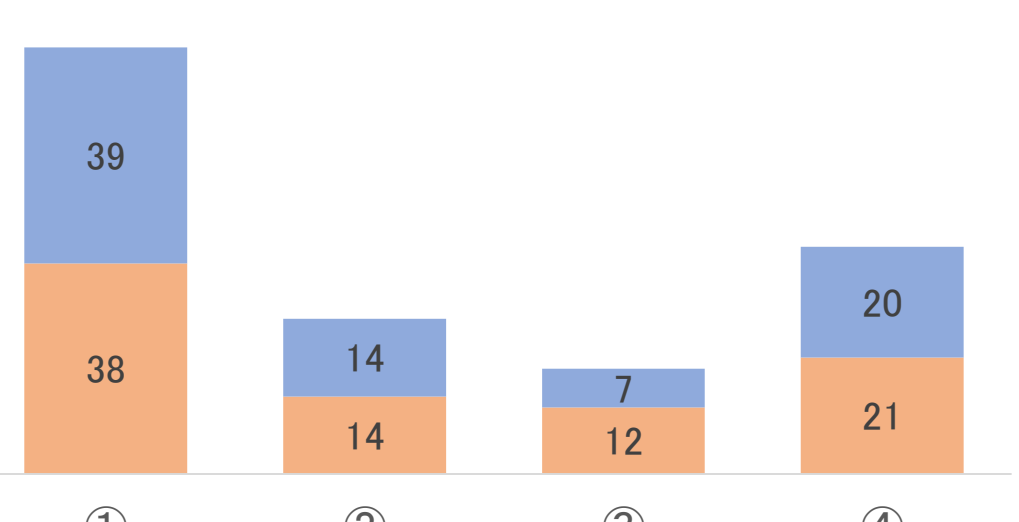


図5 ダンス経験の有無別印象に残った作品(複数選択可)

表1 ダンス経験の有無別使用された品詞数

	名詞	動詞	形容詞
経験あり	216	74	25
経験なし	179	73	31

- ともにみられた言葉(抜粋)
「揃う」「繰り返す」「伝わる」「力強い」「激しい」「印象」
- 経験者にのみみられた言葉(抜粋)
「飽きる」「怖い」「比べる」「ばらばら」
同じような流れの繰り返しのようだが少しずつ違い、飽きなかった。
激しい動きと静の繰り返して、音楽も相まって不気味な感じ。最後の1人が毎回倒れても誰も気にしないのが怖い。真ん中あたりで途中から立つようになった人はなに？どんな人なの？
男性が踊っているからか、女性と比べて力強いと思った。振りの余韻が女性と比べて短く、さっぱりした印象だった。
- 未経験者にのみみられた言葉(抜粋)
「目立つ」「離せる」「怪しい」「柔らかい」
まるでロボットのダンスを見ているのかと思うくらい全体がとてもきれいに揃っていて、一体感があったことで1人違うことをしている人が良い意味で目立っていて面白かったから。
難しいダンスではなくて、群で、首や手足を動かすだけで大きな動きとなり、危ない怪しい感じを表現していたことに驚いたから。

- ダンスを鑑賞する視点について、未経験者は作品により視点を覚えて鑑賞する傾向にある(図6)

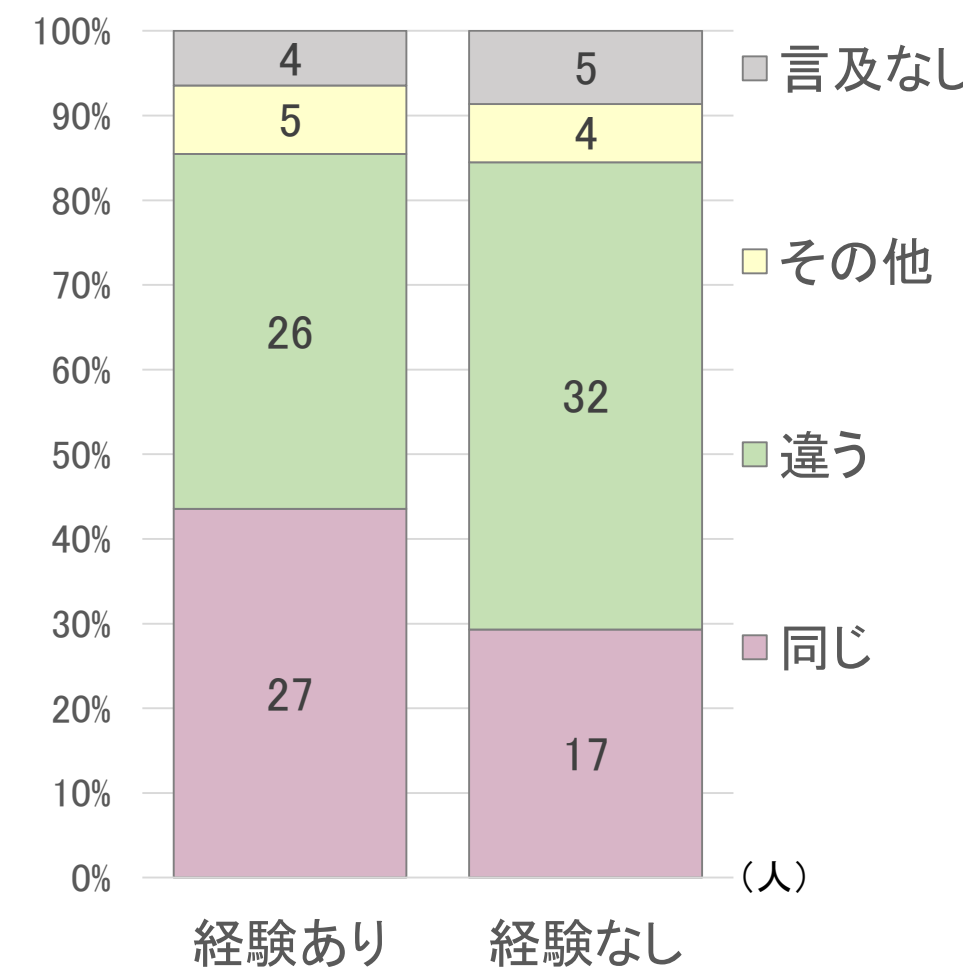


図6 ダンス経験の有無別鑑賞の視点が違ったか否か

- ダンス経験年数が10年以上だと作品により視点を覚えて鑑賞する傾向にある

フォーメーションごとのダンスの違いに注目しました。①～③のときはフォーメーションというより、ダンスの動きや表現に注目しました。

- ダンスを経験してきた人の方が全体の構成に着目してダンスを鑑賞している(図7)

- 経験者
構成・動き方/曲の変わり目/効果音に注目した。...
- 未経験者
①～③のほうが技術的に大きく注目していましたが、テーマと照らし合わせてみたのは①～④全て同じでした
振り付けとストーリーとの関連性。違う。①～③のときはダンスの完成度(いかに上手く魅せるか)を見ていたかも？

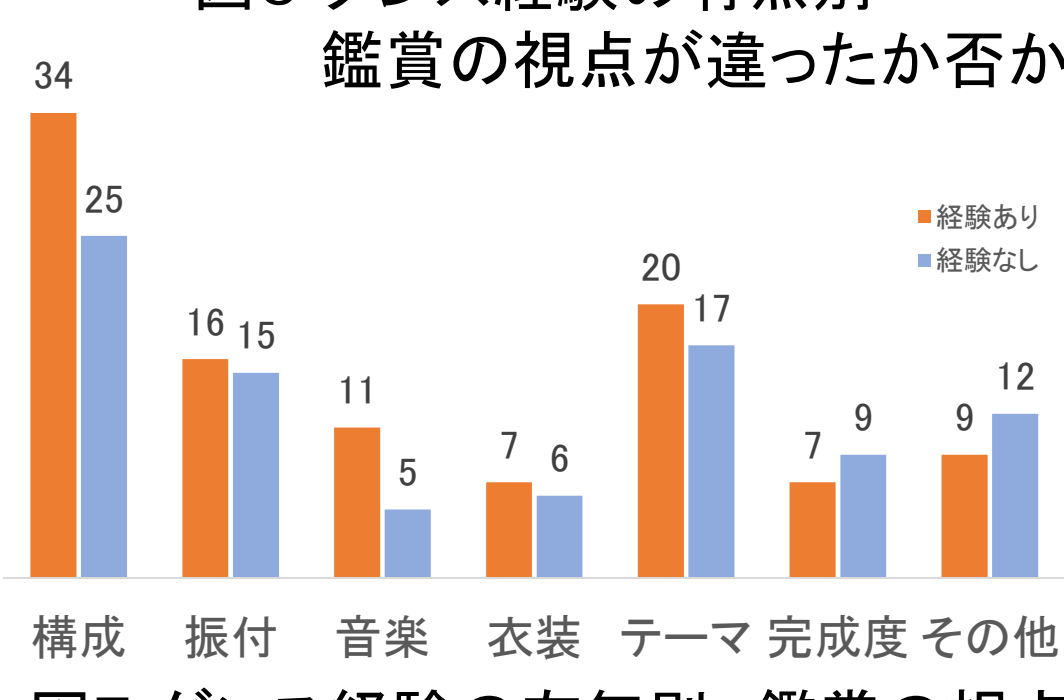


図7 ダンス経験の有無別鑑賞の視点

まとめ

- 小・中学校のダンス必修化やSNSの発達、言語化する機会が増えたことなどにより、ダンスを鑑賞した際に抱く印象やそこで用いる言葉には課外の経験の差はみられなくなってきている
- 「授業」という場では、その後の自分のためになるようにとダンスを鑑賞するため、自分たちに活かせるものを得るために、「構成」や「テーマ」を意識して見る傾向にある

主な参考文献

- 原田純子(2005)舞踊鑑賞の視点に関する事例研究.大阪女学院大学紀要1.1-12.
- 高橋和子(2020)全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)受賞作品における大学生の鑑賞力.スポーツと人間,4(1),95-106
- 塚本順子・山口孝治(2023)舞踊経験者および舞踊未経験者における舞踊作品鑑賞力の比較検討-同一作品視聴後の感想文を手がかりに-.佛敎大学教育学部学会紀要23号,153-162.